

# カラスの生態と対策

農作物に被害を及ぼすのは、ハシブトカラスとハシボソカラスの2種類で、鳥類の中ではもっとも大きな被害をもたらします。何でも食べるため、農作物の被害は野菜から果樹、イネモミ、飼料作物までほとんどの農作物に及びます。

## 生態

### 食性

農作物全般を食害するほか、バッタ類やコガネムシ、ハエなどの昆虫類をよく食べます。魚介類、ヘビ、カエル、ネズミなどの死体、残飯なども食べ、「掃除屋」との異名もあります。ヒナにエサを与える春は、播種・発芽期のダイズやトウモロコシを狙います。

### 行動

カラスはもともと人の営みにつかず離れず生きてきた鳥です。したがって、エサを得るために道具を使いこなすなど、人のそばで生き抜くための賢さを備えています。しかも天敵はいないに等しく、卵やヒナを除くと猛禽類でもカラスを襲うことはほとんどありません。

### 繁殖

繁殖期は3月～6月半ばまでで、3～6個の卵を産み、幼鳥は9月頃巣立ちます。生後2～3年以上たないと繁殖に参加できません。夏から秋、冬へと移行するにつれてねぐらは大きくなり、冬は数千～数万羽にもなります。自然界での寿命は8～9年といわれます。



## 被害防止のためのワンポイント・アドバイス

### 1 知らずに行っている餌付けをなくす

エサへのこだわりがなく、なんでも食べるので、農家の屋敷まわりや集落はカラスにとってエサの宝庫となります。知らず知らずに行っている無意識の餌付け（生ゴミや放置された野菜クズ、取り残し果実など）をカラスの目線でチェックしてみましょう。

### 2 あきらめずカラスの「慣れ」を防ぐ

防鳥テープや爆音器、カラスの死体や模型、黒ビニールなど、カラスを追いやるさまざまな方法が試されてきました。一時的には効果を発揮するものの、頭のいいカラスはすぐに慣れてしまいます。その「慣れ」を防ぐのがカラス防除のポイントです。道具を複合的に組み合わせる、効かなくなったら片付け、別の道具をセットするなど、手を緩めないようにしましょう。



### 3 テグスや防鳥ネットで防ぐ

カラスは畑を狙う際に様子を伺う見張り台のようなところにいったん止まって、安全かどうか、回りの様子を確認してから侵入します。そこで、侵入路をつぶすようにテグスを張る、畑の隅まで広めに張るといった工夫も効果的です。畑全面をテグスで覆わなくてももしばらくの間カラスは恐怖心を持つようになります。

また、経費はかかりますが、もっとも効果が確実なのは防鳥ネットを張ることです。食い破られないように丈夫なものを選び、たるませない、すき間を作らせない、農作物から離すなどの点に注意して設置しましょう。

